

「時代の要請と目の前の生徒をしっかりと見据えた改革の推進」

仙台市中学校長会長 菅野雅克

桜花爛漫、万物清新の気にあふれる爽やかな季節を迎えました。

さて、本日はここに、仙台市内 60 余名の中学校長が一堂に会し、仙台市教育委員会理事上田昌孝様をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、第 1 回仙台市中学校長会総会・研修会を開催できますことは、何よりの喜びと存じます。

今年は、現在の中学校が発足してから 60 年という節目を迎えます。そのような中、仙台市中学校長会は 2 年の準備期間を経て、本年度から宮城県中学校長会から分離し運営することになりますが、今後とも宮城の中学校教育並びに自校の教育の一層の充実・発展のため、両組織が互いに協力連携し、時には切磋琢磨し合いながら、今求められている教育改革や教育諸課題について、全力で取り組んで行きたいものです。

さて、私たちを取り巻く社会は、高度情報化やグローバル化が進み、少子・高齢化にも歯止めがかからず、急激で多様な変化を続け、先行き不透明な社会へととなっております。さらに、規制緩和と市場競争原理の波及とともに、教育現場にも様々な改革が進められ、新しい義務教育の創造が求められています。

私たち学校では、生徒にその基となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくみ、いわゆる「生きる力」を培い、生涯にわたって学び続ける「たくましく生きる生徒」、生涯学習の基盤としての「自ら学び、自ら考える生徒」を育てることが求められています。

今後の中学校教育を考えていくとき、現行の学習指導要領のもとでの教育実践活動を評価し、今後もねらいとなる「生きる力」をいかに具体化していくか、「各教科の基礎・基本」をどう押さえるか、また、「自ら学び、自ら考える力」とはどんな力なのかなどを分かりやすく示し実践することが、学習指導要領の改訂ともかわり、重要であると考えております。

また、「豊かな心」とかかわる生徒指導面では、従来からのいじめ・校内暴力・不登校の課題に、今の社会状況を踏まえた子どもの規範意識の低下などの課題への早急な対応策が求められています。また、社会からの要請として、環境教育、情報教育、国際教育、キャリア教育、学校の安全・安心等の課題への対応があげられます。これらの

諸課題はスクラップされることなく、ほとんどがビルドされる一方で、中学校現場での教員の多忙化は深刻化しており、教育再生会議などにおいても、中学校教育の飽和状態について現場からの視点も考慮し、議論いただくことを期待しているところです。

現在、進行中の義務教育の構造改革については、社会の変化が著しく、教育問題もこれだけ深刻化・多発化する中では、改革が絶えず求められるのは当然であり、改革によっていろいろな課題の克服を図らなければならないと考えます。ただ一方で、多くの校長がこの教育改革が「スピードが速すぎる」「納得できない面がある」などの感覚を持っているのも事実です。これは、改革の内容が現場の感覚としっかり結びついていない、つまり、「学校が直面する問題と教育改革が対応していない」という感覚を抱いているためと思われます。そのことは、教育の主役である生徒に対する視点や手立てがしっかりと読み取れないからです。

教育は国づくりの基本だ、人づくりの基本だと捉えるのであれば、教育にさらなる財政的な投入が、是非とも必要と考えます。具体的には、① 1 学級の人数を減らし、教師がより個別に対応できる規模とする。② 教育にかかわる多くの課題から厳選を図り、学校の役割をより焦点化する。③ 富の 2 極化といわれる今、子どもたち一人一人の教育の機会均等を国が補償するなどへの対応を期待したいものです。

私たち校長、そして校長会は、今まさに目の前に学ぶ生徒のための新しい義務教育の創造が求められている時代だからこそ、今後とも、学校の主体性を確立しながら、創意ある教育課程の編成、指導法の改善をはじめ、子どもの豊かな人間性や感性を高め、「主体的に生きるための基本となる価値観や実践的な態度」を育てる教育活動を展開したいと考えます。さらに、学校力や教師力をさらに高め、「生徒の前に立つ教職員が十分に力を発揮できるような学校運営」への取組も目指したいものです。

最後になりますが、ご多用の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆様重ねて感謝を申し上げ、挨拶とします。